



社会医療法人 栄光会

栄光病院

EIKOH HOSPITAL

広報誌（医療版）

Vol. 37

2024 Aug

手と目と



「栄光の夏」

回復期リハビリテーション病棟
入院患者さんの作品

■Contents■

- 院長交代のごあいさつ
- 特集～ホスピス病棟 七夕会～
- 部署紹介
- 【連載】
医療・看護の質向上への取り組み
- 健康のためのちょっとイイお話し
- My Favorite ～私のお気に入り～
- 診療スケジュール
- 編集後記

理念を目ざすモチベーションが
企画力・交渉力となり、
推進力となり、
そして目標を達成する業績・結果を
生むことにもなりました。

（「栄光会フィロソフィ」より）

「今月のことば」

「手と目と」

この言葉には、
「手」と「目」で「見る」
（手+目=看）という
私たちの思いが込められています



社会医療法人 栄光会
理事長 井上 裕



栄光会を日頃よりご利用いただいております皆様へ、一言ご挨拶申し上げます。私、井上裕は、二〇一七年七月より栄光病院の院長を拝命し、二〇二一年七月より社会医療法人「栄光会」の理事長を併任させていただいております。今回、六月三十日をもって院長職を辞し、ホスピス長の下稲葉順一に引き継ぐこととなりました。これまでの長きにわたり、皆様には本当にお世話になり、心より感謝申し上げます。今後は理事長職に専念いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

私は二〇〇八年に栄光病院に外科医として赴任し、あつという間の十六年が過ぎました。現状では、世間的にはコロナ禍も過去のものとなり、「コロナとともに生きる」スタイルが定着しておりますが、医療環境は依然として厳しい状況が続いております。また、この間に栄光会の創始者である三人の先達を次々と失い、名実ともに栄光会は新旧交代の時期を迎えております。

さて、私たちは創立以来四十年にわたり、患者さん・ご家族の幸せと生きがいに貢献することを願ひ、からだと心を診る医療・看護・介護に努めてまいりました。日本の医療において「超高齢・多死社会」に伴う社会問題が大きな課題であることは、今や国民共通の認識であり、政治や医療の大きなテーマとなっております。地域の皆様に「必要とされ頼りとされる」栄光会を目指して、今後も努力してまいります。

新院長は若く、行動力に富んでおりますので、きつと皆様のご期待に応えられる力を発揮してくれるものと確信しております。皆様の温かいご支援を引き続き賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

新院長とともに、皆様のご期待に沿うよう一層の努力をしてみたいと思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



社会医療法人 栄光会 栄光病院
院長 下稲葉 順一



「幸せ」と「生き甲斐」に込める病院をめざして

この度、二〇二四年七月一日付で院長に就任致しました、下稲葉順一と申します。この重責に、身の引き締まる思いですが、覚悟をもって職務を遂行していく所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

栄光病院は四十年以上の長きにわたり、『癒し癒される』という理念のもと患者さんそのご家族の『からだ』と『こころ』を診る、そして『幸せ』と『生き甲斐』に尽くす医療・看護・介護を目指し、努めてまいりました。この思いをしっかりと引き継ぎ、発展させ、地域の皆様に必要とされ、愛される病院であり続けることができるよう、更に励んでいきたいと思っております。

私は一九九七（平成九）年に琉球大学医学部を卒業後、九州大学第二内科に入局。二年間の臨床研修後は、循環器を専門に勤務し、二〇〇一（平成十三）年四月より当院に勤務、以降ホスピス緩和ケアに従事してまいりました。この終末期の現場で教えられたことは、ホスピスの『こころ』＝温かい思いやりの『こころ』で関り続けていくことで、人は例え困難な状態にある中でも、穏やかになれる可能性があるということでした。また同時に、ケアする私たちも、このような関わりを通して癒されていくという、いわゆる『癒し癒される』という経験をしてきたのです。

「超高齢・多死・人口減少社会」を迎えた今、私たちを取り巻く生活環境は益々厳しくなっております。このような生きづらさを覚える状況においても、住み慣れた地域で、過ごしたい場所で穏やかに過ごすことができる。そのような温かく、思いやりのある地域づくりにも寄与できる病院をめざし、『こころ』を込めて励んでいきたいと思っております。これからも、関わる全ての方の『幸せ』の『小さなきずかけ』となる働きを目指していきます。何卒宜しくお願ひ致します。

7月10日にホスピス病棟で開催された七夕会についてご紹介します。

ホスピス病棟では春はお花見、夏は七夕と夏祭り、秋はお月見、冬はクリスマス会といったように、季節に則したイベントが1年を通して計画されています。

今回の七夕会から5年ぶりにホスピス3病棟合同での開催となり、感慨深いものとなりました。

なぜなら2020年からコロナ禍となり、3病棟合同での開催が中止されていたからです。

スタッフの中にも合同での開催を経験したことがない人も多く、準備の段階から沢山の患者さんの搬送や進行が時間通りに進むのかなどといった不安と緊張を抱いていたスタッフも少なくありませんでした。しかし当日は滞りなく会は進み、無事に終わることができました。とても楽しい時間を患者さんとご家族と一緒に過ごすことができ、私たちスタッフにとっても大変貴重な時間となりました。参加していただいた患者さん、ご家族、ご協力いただいたスタッフの皆さん、ありがとうございました。



カラオケの講師をされている患者さんが歌を披露してくれました。(今回の写真の掲載は「光栄なことです」とご本人から快諾していただきました)



仮装したスタッフによる余興



参加された患者さんや御家族を浴衣姿の看護師と、栄養科のスタッフが用意してくれたお菓子でおもてなし♪



栄光病院 ボランティアの紹介



栄光病院にお越しくださった方を 季節の花がお迎えしています。病院の玄関前の花壇を造って管理しているのはボランティアさんです。花壇ボランティアの活動は6年目に入りました。ボランティアさんたちのご尽力によって 心を癒してくれる花がいつもそこに咲いています。

栄光病院のボランティア活動は 開院後間もなく始まりました。栄光病院では ボランティアグループを「ぶどうの会」と名付けています。名付け親は三代前の看護部長で初代ボランティアコーディネーターでもある広瀬典子さんです。広瀬さんの時代より、栄光病院は日本病院ボランティア協会の会員として登録され、同協会では全国的にもボランティア活動が盛んな病院と認識されています。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」（聖書：ヨハネによる福音書 15 章 5 節）

ボランティアさんは病院に外の爽やかな風を運んで来てくれます。職員とは違った角度から栄光病院に関わることができる重要なパートナーです。ボランティアさんの姿が見えると、患者さんやご家族のみなさん、また職員の間にも優しい空気が広がります。ボランティアさんは 栄光病院には欠かせない存在です。

ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2020年2月23日より、ボランティアのみなさんには活動の休止をお願いしなければならなくなりました。それまで ほぼ毎日、病院のあちこちで活動していたボランティアさんの姿が見られなくなって、この4年余の間、栄光病院は 寂しい時間を経験しました。

ただ そのような中、マスクを着用する、病院建物内には入らないといった対策を講じた上で活動することを確認し、新型コロナ対策会議の承認を得て、活動を継続して下さっていたのが花壇ボランティアです。また、折り紙やペーパークラフトの飾り物を自宅で作って、送り続けてくださったボランティアさんもいます。患者さんや病院のことを想いながら作ってくださった作品に心が温められています。

今年度に入って、感染状況に注意しながら、ボランティア活動を再開することとなりました。先日7月10日、ホスピス病棟の七夕会に、2名のボランティアさんが参加していただきました。本当に うれしい瞬間でした。



ホスピス病棟 七夕会(礼拝堂)



病院ボランティアに関心をお持ちの方は
お気軽にお電話ください。
特別な資格や経験は不要です。
【お問合せ先】ボランティア統括部 藤江
092-935-0147 (栄光病院 代表)



■スキルセッションにて胸骨圧迫、AEDの訓練をしています

医療・看護の質向上への取り組み

BLS講習 実施報告 ～BLS (basic life support)：一次救命処置～

看護管理室
副看護部長 下稲葉 道一



5年ほど前になりますが、当院の消化器内科部長 中里医師を中心に、全職員対象にBLS講習を実施しました。

しかし、2020年より新型コロナウイルスの流行により、感染対策として集合研修ができなくなり、しばらく講習がストップした状態でした。

昨年より感染症2類より5類への移行、重症化リスクの低減等で

BLS講習を今年度より再開する事になりました。

今回からBLS講習が永続的に実施できる体制を構築するために、看護部を中心に取り組みを開始しました。

まずはBLSインストラクターを育成し、インストラクターが全職員へBLS講習を実施するために、

外来・各病棟、リハビリテーション課、介護事業部より担当者を決め、昨年10月にキックオフミーティングを開催しました。中里医師（コースアドバイザー）の指導の下、インストラクター養成講習を開始しましたが、養成講座の途中、病棟で新型コロナ感染の拡大があり中断を余儀なくされる事もありました。

予定より時間を要しましたが、どうにかインストラクター全員が講習を終了する事ができ、マニュアルまで完成する事ができました。

今年の7月より実際に、BLS講習を開始しましたが、

今回より、病院職員とかめやま職員の職種別のコース設定に加え、

胸骨圧迫等の技術を習得するスキルセッションと、実践訓練のシナリオセッションの2部構成でプログラムしています。

病院Aコース【一般職：事務職員、看護補助者、栄養士、MSW、CM】→胸骨圧迫+AED

病院Bコース【医療職①：セラピスト、薬剤師、検査技師、放射線技師、ME】→病院Aコース+人工呼吸

病院Cコース【医療職②：医師、看護師】→病院Bコース+マニュアル除細動

かめやまAコース【かめやま医療職①：事務職員、栄養士、MSW】

→胸骨圧迫+AED+小児蘇生（クリニックライフサポート）

かめやまBコース【かめやま医療職②：医師、看護師、セラピスト、介護福祉士】

→かめやまAコース+人工呼吸（クリニックライフサポート）

※かめやま施設内のファミリークリニックは小児科が併設されているため、小児蘇生も取り入れています

また、インストラクター養成講習修了職員にはBLSバッチ・修了証、

BLS講習修了職員には講習受講修了シールが授与され、

名札に貼る事で受講修了者がわかるようにしています。

現在、Aコース（一般職）から開始していますが、「定期的に訓練を受ける必要がある」

「特に病院外でこのような状況に遭遇した事を考えると不安でしたが、少し自信ができました」

などの意見が聞けました。

7月より6～7か月かけてBLS講習を実施していきますが、全職員が質の高いBLSを多職種でチームとして実施できるようにインストラクターと協力し取り組んでいきます。



■インストラクター受講修了証



■訓練職員は役割を決め、状況設定下で訓練を実施しています

健康のための

ちよつとイイお話し

「睡眠と健康」

私の特技として唯一胸を張って言えるものは、「眠る」ことです。今まで夜眠れずに困ったという記憶もなく、ベッドに入ると5分以内に眠りにつくことができます。最近、メディアで「睡眠負債」というワードをよく目にします。また、眠るための様々な寝具やグッズも紹介されており、睡眠に対する関心が高まっているようです。今回、そんな睡眠に関して、「健康づくりのための睡眠ガイド2023」の内容を一部ご紹介します。

一．睡眠の機能と健康との関係

良い睡眠は、脳・心血管、代謝、内分泌、免疫、認知機能、精神的な健康の増進・維持に重要であり、睡眠が悪化することで、これに関連した様々な疾患の発症リスクが増加し、寿命短縮リスクが高まることが報告されています。また、良い睡眠は日中の活動で生じた心身の疲労を回復する機能とともに、成長や記憶（学習）の定着・強化など環境への適応能力を向上させる機能を備えています。



栄光病院 リハビリテーション課

課長 平島 哲也

二．睡眠の基本的な特徴

〈眠ることができる時間には限りがある〉

一晩に眠ることができる時間には限りがあります。身体が必要とする睡眠時間以上に眠りをとろうと床の上で長く過ぐすと、眠りの質が低下することがわかっています

〈必要な睡眠時間は年齢によっても変化する〉

15歳前後では約8時間、25歳で約7時間、45歳では約6.5時間、65歳では約6時間というように睡眠時間が次第に減少します

〈必要な睡眠時間は季節によっても変化する〉

睡眠時間は季節によっても変動し、夏季に比べて冬季に10〜40分程度、睡眠時間が長くなること示されています。

このように、睡眠は年齢によって特徴があることが分かります。「高齢者版睡眠ガイド」の内容を一部ご紹介します。

〈床上時間について〉

高齢世代では、長い床上時間が健康リスクとなるため、睡眠時間よりも床上時間を重視

しましょう。床上時間が8時間以上にならないように制限することが、睡眠の質を高めることに役立つ可能性があります。

〈昼寝〉

夜間の良眠を妨げてしまう原因になりうるため、日中の長時間の昼寝は避けるようにしましょう。

〈日中の活動と昼夜のメリハリ〉

日中の活動時間を増やし、必要以上に寢床で過ごさないようにすることが、健康を保持・増進するために重要です。高齢世代は日中にできるだけ長く太陽の光を浴びること、習慣的に運動を行うことがお勧めです。ラジオ体操やヨガなどのイベントを活用して運動習慣をつけることも良質な睡眠の確保に役立ちます。





回復期リハビリテーション病棟
病棟医長(リハビリテーション科)
医師 竹之山 利夫

私の好きな言葉の一つは、「温故知新」です。故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る、その言葉の意味を、約30年前からコツコツ集めた「そば猪口(ちよく)」などから教えてもらっています。38歳で脳腫瘍の手術を受け地獄の思いを味わいましたが、奇跡的に後遺症を残さず社会復帰を遂げた時から、収集を始めました。名もない作り手が創造し、捨てがたい魅力を含めながら価格も安く、文様は千変万化です。

そもそも記録では、元禄四年(1691年)『柿右衛門家文書』に「染付猪口」の名がみられますが、正徳三年(1713年)の『和漢三才図絵』では形が猪の口に似て、冷酒を飲んだり、和(あ)え物を盛ったりする、と書かれています。江戸時代にそば屋の数が著明に増えるのは18世紀の後半ですので、この頃より後につけ汁を入れた器を「そば猪口」と呼んだのだろうと推測されます。古い資料は、「明治3年(1870年)そば猪口二十人前」と墨書された木箱がある程度です。次に、「お気に入り」を十二角の李朝膳(写真1)に時計回りに並べてみました。向こう正面の(写

真2)は青磁染付です。見込みに栗鼠(りす)

と葡萄が描かれています。いずれも、安産、子

沢山の象徴であり、吉祥絵柄です。宝暦様式

(1750~1780年)とされます。(写真3)は、

高台(こうだい)付き猪口、雷雨文です。素地(き

じ)が滑らかな白磁で、呉須が鮮やかです。上

手(じょうて)のもので元禄様式(1680~1700

年)です。元貴族院議員の蔵から出たと聞きました。(写真4)は宝暦様式の大型の色絵の猪口

です。丁寧(ていねい)に作られており、おいしい料理が盛り付けられたでしょう。(写真5)は17世紀の中頃に作られた、網干(あほし)の染付の小猪

口です。盃として使われたと思います。(写真6)はコンニャク印判の染付です。印判は繰り返し使われたとされ、これは熨斗(のし)・井桁(い

げた)文です。元禄様式(1730~1750年)です。中央は大きめの筒形の猪口で、源氏車(げんじ

ぐるま)と菊花の染付です。源氏車はずっと回

転し続けることから縁起物とされました。宝暦

様式と考えられています。向付けにしたか、お茶を

飲んでいたのででしょうか。閉店した「天神ギヤラリ

」で開かれた、「伊万里

のそばちよこ」展の絵葉

書(写真7)に鎮座して

いました。

他にも「覗き猪口」と呼ばれる、小振りで筒

形の猪口もあります。中の料理は何かと覗(の

ぞ)いて見たからでしょうか?角型の李朝膳(写

真8)に並べました。

今回は、発表の機会を与えていただき、感謝

します。我が家には「お気に入り」がまだまだ眠っ

ていますので、時には日の目を見せたいと思っ

ます。

〈参考文献〉

- ①別冊 太陽「そば猪口事典」構成大橋康二平凡社
- ②年代別 蕎麦猪口大事典」監修・執筆大橋康二講談社
- ③「そば猪口」料治熊 大河出書房新社
- ④「そば猪口絵柄事典」小川啓司 光芸出版
- ⑤蕎麦猪口・酒器1000」責任編集 中島由美 講談社



※広報誌の送付が不要な方は 下記までご連絡ください。

社会医療法人 栄光会 広報営業部会 担当: 齋藤
TEL 092(935)0147 E-mail saitoh-2-9@eikoh.or.jp

栄光病院

(2024年8月1日現在)

曜日	月		火		水		木		金		土		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
総合	①	原	藤木	布巻	原	青戸	安藤	原/安藤	永井	藤岡	青戸	原/安藤	手越
	②	当番医		鶴田		原		斎藤		鶴田		手越	
外科		井上		園田		井上/斎藤		斎藤		斎藤		園田	園田 (初診のみ) 受付16:30迄
専門・予約外来	循環器				吉田賢明	畑島	折田義也	折田加奈子					
	呼吸器				安藤					安藤		秋山(第1土曜) 武田(第3土曜)	
	糖尿病			永井	永井	二宮		永井					
	脳神経内科	鶴田		大野		藤木		大野		藤木			
	整形外科		山口	本村				原雄人 (am10:00~)					
	泌尿器科											九大	

土曜日 午後 の外科診療
行っています **但し、初診のみ**

けが・やけど、動物に咬まれた、打撲等

※医師は井上・斎藤・園田が交替で担当します
※受付は16:30までです



診療スケジュールは都合により変更となる場合があります。

予めご了承ください。

- 診療時間は、9:00~17:00(昼休み12:30~13:30)となっています。なお、午前中の受付は12:00までとなっておりますのでご注意ください。ただし、急患は24時間いつでも受け付けております。
- 専門外来・ホスピス相談は原則として予約制となっています。ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

【発熱外来 事前予約不要のお知らせ】

発熱外来を受診ご希望の際、「事前予約」は「不要」です。抗原検査をご希望の場合や、ご不明な点がございましたら、事前に電話でのお問い合わせにも対応させていただきます。

ご遠慮なく外来へお問い合わせください。

【救急外来受付】

救急患者さんの受け入れを
24時間体制で行っています

※事前に  **お電話にて**
診療科の確認をお願いいたします

TEL.092-935-0147

栄光病院グロリア基金のご案内

栄光会の医療・介護・福祉の事業展開のために皆さまお一人お一人のお力添えを心よりお願い申し上げます。栄光会事業の趣旨にご賛同賜り、ご支援頂きますならば、誠に幸甚に存じます。

【グロリア基金 お振込口座】

栄光病院グロリア基金 代表 井上裕

西日本シティ銀行 博多支店 普 No.1533165
福岡銀行 吉塚支店 普 No.1443197
郵便振替 No.01730-8-76630 (代表者名等なし)
*法人・個人を問わず任意の額で結構でございます



編集後記

今年は例年以上に猛暑となり、その中でボランティアの方が花壇のお世話をされている姿を見かけます。お陰で病院駐車場前の花壇はいつもとても綺麗です。「仕事」としてではなく「ボランティア」として活動される方々には、尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

私は定年後の生活に余裕があれば、保護猫活動をしたいと考えるほど大の猫好きです。と考えると、ボランティア活動は「愛」だと気づかされました。七夕の短冊に願いを込めませんでした、「シン・栄光会」の今後の発展と、皆様の健康と、そしてコッソリ我が家の3ニャンたちの健康に祈りを込めて… (鈴木)



救急告示病院

社会医療法人 栄光会

栄光病院

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15

Tel.092(935)0147

Fax.092(936)3370

URL: <https://www.eikoh.or.jp>

E-mail: eikoh@eikoh.or.jp